



株式会社フェイス
第13期中間事業報告書

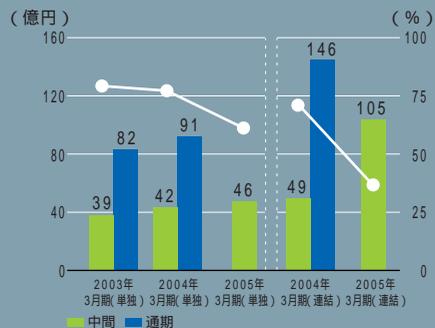
Faith, Inc. Semiannual Report
(2004.4.1~2004.9.30)



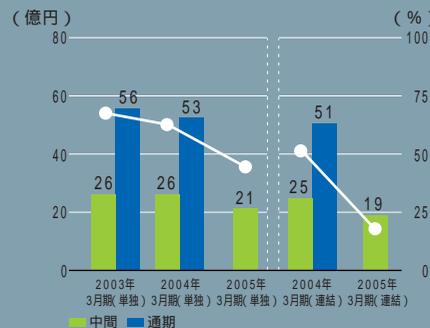
財務ハイライト(単独 / 連結)

単位未満切り捨て

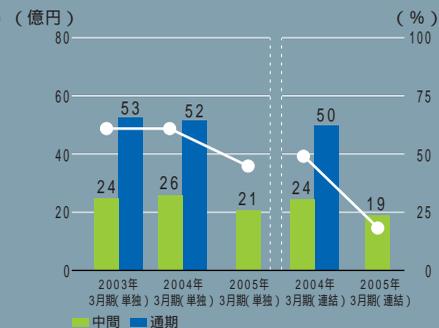
売上高 / 売上高総利益率



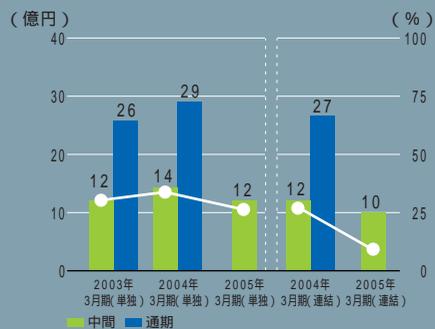
営業利益 / 営業利益率



経常利益 / 経常利益率



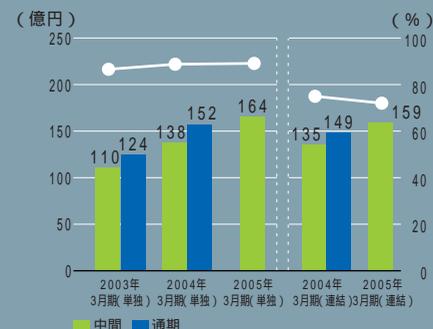
中間(当期)純利益 / 中間(当期)純利益率



総資産



株主資本 / 株主資本比率



一株当たり株主資本



一株当たり中間(当期)純利益



2004年8月20日付で1株を2株に株式分割しております。

株主の皆様へ



代表取締役社長 平澤 創

営業の概況

当中間連結会計期間における日本経済は、企業収益の伸びを背景に回復基調を保ち、デフレ懸念の後退、雇用情勢の改善により個人消費も底堅い動きを見せました。

国内の情報通信業界においては、携帯電話端末の第三世代移动通信システムへの本格的な移行、ADSL、FTTHなどのブロードバンド・ネットワークの普及により、ネットワークを通じたコンテンツの利用環境が大きく進化しました。同時に、情報端末のユビキタス化、音楽配信端末の普及促進により、新しいコンテンツ流通のしくみに対するユーザーのニーズが高まりました。このような国内市場の動きに先んじて、当社グループは、「音楽コンテンツの新しい流通のしくみ創り」に積極的に取り組みました。また、国内の有力アーティストマネジメント会社や音楽著作権管理会社などとの密接な連携を図り、次世代の音楽・情報配信サービス事業を推進するなど、将来に向けた収益機会が多様化を図りました。電子決済の分野においても、オンラインゲーム市場で60%以上、音楽配信市場で30%以上のシェアを獲得しました。

海外においては、本格的な市場成長期に突入した米国、世界最大の潜在市場である中国を中心に、当社グループが技術ライセンスをしている携帯電話端末向け音源チップの需要が拡大しました。同時に、コンテンツサービスを世界21ヶ国で展開しました。

以上の結果、当中間連結会計期間の業績は、売上高10,521百万円(前年同期比113.9%増)、営業利益1,909百万円(同24.5%減)、経常利益1,939百万円(同20.6%減)、中間純利益1,014百万円(同21.5%減)となりました。減益の主要因は、主に国内において競争力を強化するための先行投資による費用負担が増加したことです。具体的には、新サービスのためのシステム構築、主力サービスのデータセンターの再構築を実施しました。

事業部門別の業績

新しいコンテンツサービスが新たな需要を開拓したほか、技術ライセンスが拡大しました。

ネットワークを利用したコンテンツ配信事業

サービス事業とライセンス事業からなる当事業の売上高は5,390百万円(前年同期比10.9%増)、営業利益は2,016百万円となりました。

サービス事業

国内では、3つの携帯通信キャリア合わせて、月800万人規模のコンテンツ配信サービスユーザー数を有しています。また、当中間期は、関係各社との連携のもとで積極的な事業投資を行い、通話相手の呼び出し音を設定できる「メロディコール」サービスへのコンテンツ供給や、ラジオ付き携帯電話端末と放送との連動サービスを実現したほか、次世代のディストリビューションインフラの開発を担う株式会社イー・デシヴェルを設立しました。

海外については、特に、中国市場の開拓に注力しました。中国の携帯電話加入者数は2004年9月末ですでに3億人を超えています。この有

株主の皆様へ

望な市場を当社主導で、より積極的に開拓するため、中国AnyMusic社(2003年に現地プロバイダのAny8社、ニチメン(現・双日)グループとで設立した合弁会社)を子会社化しました。また、全米No.1の着信メロディサービス“Modtones”を南米、アジア・パシフィック地域などへも積極的に展開し、着実にユーザー数を増やしました。前期にサービスを開始した、原盤を用いた“Modtones DJ”や今中間期からサービスを開始した人気アーティストや映画コンテンツのグラフィックアートを配信する新サービス“Modtones Gallery”も話題を呼びました。

この結果、サービス事業の売上高は4,338百万円(前年同期比0.5%増)となりました。

ライセンス事業

国内において、当社グループの音源技術は、すでに複数の半導体メーカーを通じてデファクトスタンダードとなっています。引き続き、第三代移動通信システムにおいても、携帯通信キャリアとの協業のもと、新たなサウンドソリューションを開発していきます。

一方、海外においては、米Qualcomm社が推進するCDMA通信方式の世界展開に合わせて、当社グループの技術ライセンスが拡大しています。米国では、すでに新規出荷携帯電話端末の過半数に当社グループの技術が組み込まれています。欧州では、各国間での仕様が異なる技術ライセンスに迅速に対応し、欧州全域で拡大していく需要を積極的に取り込むために、仏Digiplug社のライセンス部門を分社化し、同社100%子会社、仏Faith Technologies社を設立しました。

また、世界の携帯電話端末の製造拠点が中国周辺地域に集約化されつつある状況を見据えて、現地携帯電話端末メーカーや半導体メーカーとの密接な関係を築くために、他社に先駆けて台湾支店を新設しました。

この結果、ライセンス事業の売上高は1,051百万円(前年同期比92.9%増)となりました。

電子決済ソリューション事業

国内のブロードバンド・ネットワーク契約件数は、2004年9月末時点

で1,700万件を超えました。特にオンラインゲーム利用者の増加が著しく、全世界で数千万人のユーザーを抱えるタイトルも出現しています。オンラインゲームは、日本のゲームユーザーにも急速に浸透しており、2006年末には1,000億円規模の市場に成長すると考えています。

このような状況において、安全で利便性の高い「WebMoney」は、ネットワーク上の「リアルタイム決済」における標準決済手段の地位を確立しています。当中間期は、今後の決済高の拡大に対応するため、人員の増強などを中心に積極的な開発投資を実施しました。

以上の結果、電子決済ソリューション事業の売上高は5,127百万円、営業利益は106百万円となりました。

その他の事業

その他の事業については、コンテンツデータ制作機器のコンテンツプロバイダ等への販売を行い、売上高は3百万円(前年同期比94.3%減)、営業利益は0百万円となりました。

通期の見通し

当社グループは引き続き、「音楽コンテンツの新しい流通のしくみ創り」に積極的に取り組み、海外子会社、携帯通信キャリア、携帯電話端末メーカー、ライツホルダーなどとの連携によって、積極的に需要を開拓してまいります。また、オンラインゲーム、音楽配信市場の拡大とともに飛躍的な伸びを見せるインターネット上の決済需要を着実に取り込むため、電子決済ソリューション事業も積極的に推進していきます。

通期の業績の見通しについては、売上高22,431百万円、経常利益5,299百万円、当期純利益3,088百万円を予想しています。

株主の皆様、そして取引先各位におかれましては、今後とも引き続き当社にご理解とご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

2004年12月

代表取締役社長

平澤 創

世界各地での新しい動き



北米市場



米McDonald's社とプロモーションで提携

米Faith West社は米McDonald's社と提携し、同社が実施している米国最大規模の「MONOPOLYキャンペーン」を共同で実施しました。これは、「Modtones」の着信メロディをキャンペーン賞品とするもので、MONOPOLYゲームの勝者は、数千種類の着信メロディの中から好きな1曲を選ぶことができます。このキャンペーンを通じて、ファミリーを中心に「Modtones」のユーザー層はあっという間に拡大しました。

音楽配信サービス「Modtones DJ」が話題に

米Verizon Wireless社の新サービスとして登場した「Modtones DJ」は、原盤の楽曲がダウンロードできることから音楽ファンの絶大な支持を集めています。今回、米国大手携帯通信キャリアのU.S. Cellular社でもサービスを開始し、より多くのユーザーに新しい楽しみを提供しています。



グラフィックアートを配信する 「Modtones Gallery」をサービスイン

画像を高品位に表現できる高機能携帯電話端末が普及しているなか、米Faith West社は、新たにグラフィックコンテンツを配信する「Modtones Gallery」をサービスインしました。映画やポップアート、ファッションブランドをはじめ、様々なジャンルの画像がダウンロードできます。



ついにゴスペルミュージックも! 「Divine Calling」をサービスイン

ゴスペルミュージックの市場規模は、ラテン、ジャズ、クラシック、サウンドトラックを上回ります。米Faith West社は「新しい礼拝のかたち」の提案として、ゴスペルミュージックの和音着信メロディ配信サービス「Divine Calling」を開始しました。米U.S. Cellular社が提供する次世代データサービス「easyedgeSM」で配信され、老若男女を問わず人気を集めています。



ASIA アジア市場



中国AnyMusic社を子会社化し、 世界最大市場・中国での展開を強化

フェイス、中国の大手サービスプロバイダAny8社、ニチメン（現・双日）グループとで2003年1月に設立した中国AnyMusic社は、現地の大手サービスプロバイダとして、中国のモバイルコンテンツ市場を創造し、これまでに現地No.1、No.2携帯通信キャリアにサービスを提供してきました。そして2004年8月、フェイスは将来性のある中国市場での展開を強化するため、中国AnyMusic社を子会社化しました。

中国の携帯電話加入者数は3億人を超えているものの、モバイルインターネット接続サービスの普及率は10%以下であり、高品質なコンテンツ配信の普及はまさにこれから。フェイスは、すでに中国国内の各携帯電話端末メーカーへ音源技術をライセンスしており、今後もコンテンツ配信サービスにまつわるビジネスソリューションを提供していきます。



香港ロジャム社と提携し、 エンターテインメントコンテンツ流通を促進

今回フェイスが提携した香港のロジャム社は、音楽コンテンツのプロデュース、CD販売、ディスク経営などを手がける総合エンターテインメント企業です。アジアのエンターテインメント市場で、フェイスはコンテンツ配信ビジネスを核に市場の開拓と育成を進めていきます。



マレーシアの人々に原盤を使用した 音楽コンテンツを提供

マレーシアの携帯電話加入者にとって和音着信メロディの利用はすでに定番。そんな音楽好きのマレーシアの人々に新しい楽しみを提供するため、フェイスは現地の大手携帯通信キャリアMaxis社に原盤を使用した音楽配信サービスのコンテンツ・ソリューションを提供しました。音楽コンテンツは映画音楽が中心で、臨場感溢れる楽曲を大勢の人々が楽しんでいます。

フィリピンで、コンテンツ・ソリューションを提供

フィリピンでも和音着信メロディは人気があり、音楽コンテンツ流通市場は年々拡大しています。今回フェイスは、1,600万人以上の携帯電話加入者数を獲得している現地No.1携帯通信キャリアのSMART社と提携し、米国、英国のヒットポップスを中心に、フィリピンの楽曲も多数ラインナップに加えた音楽コンテンツ配信サービスを開始しました。





欧州市場



仏Faith Technologies社を設立し、 ライセンス事業を強化

欧州全域における携帯電話加入者数は3億人を超えています。モバイルインターネットの利用者はまだまだ少ないというのが現状です。しかし、高性能携帯電話端末が普及し始めたのに伴い、モバイルコンテンツの利用、特に和音着信メロディの利用が急速に拡大しつつあります。

仏Digiplug社は、このような市場動向を見据え、各国間で仕様の異なる携帯電話端末にあわせた音源技術ライセンスの提供を強化するため、同社のライセンス部門を分社化し、仏Faith Technologies社を設立しました。ライセンス事業を強化することで、よりいっそうのコンテンツ需要を開拓するとともに、人々に新しい楽しみを提供していきます。



TOPICS



「音のエンターテインメント」 文化創造を積極的に支援

フェイスは音楽文化活動支援の一環として「ショパン国際ピアノコンクール in ASIA」と「ディズニー・オン・クラシック ～まほうの夜の音楽会2005」に特別協賛します。

「ショパン国際ピアノコンクール in ASIA」は、アジアの音楽文化の育成と普及に貢献し、国際レベルの優れた演奏家を発掘し育てることを目的としたもので、ショパンの音楽がポーランドと日本の文化交流の架け橋となることを願うものです。

「ディズニー・オン・クラシック」は、ウォルト・ディズニーの世界観がふんだんに詰まったファンタジーの世界をフル構成のオーケストラでお贈りするコンサート。2005年1月から全国29会場で34公演が開催され、夢のようなステージが繰り広げられます。

これからもフェイスは、「音のエンターテインメント」文化創造を積極的に支援していきます。



©Disney

WebMoneyがマイクロソフト社の 音楽配信サービスの決済手段に

マイクロソフト株式会社が2004年10月20日より開始した有料音楽配信サービス「MSNミュージック」の決済手段として、電子マネー「WebMoney」が採用されました。サービス開始当初に配信される楽曲は約5万曲ですが、2004年末までに10万曲以上になる予定で、国内最大級の音楽ライブラリとなることから、「WebMoney」の利用拡大が期待できます。

要約中間財務諸表(連結)

中間連結貸借対照表

科 目	当 中 間 期		前 中 間 期	
	2004年9月30日現在	2003年9月30日現在	2004年9月30日現在	2003年9月30日現在
(資産の部)				
流 動 資 産	15,797	11,935		
現金及び預金	8,825	6,062		
受取手形及び売掛金	3,185	2,007		
有価証券	2,836	2,957		
たな卸資産	8	11		
繰延税金資産	733	711		
その他	246	192		
貸倒引当金	39	6		
固 定 資 産	6,095	6,018		
有 形 固 定 資 産	507	553		
無 形 固 定 資 産	2,945	3,457		
連結調整勘定	2,608	3,126		
その他	336	331		
投資その他の資産	2,642	2,007		
投資有価証券	1,639	945		
敷金	748	744		
その他	448	520		
貸倒引当金	192	202		
資 産 合 計	21,893	17,953		

科 目	当 中 間 期		前 中 間 期	
	2004年9月30日現在	2003年9月30日現在	2004年9月30日現在	2003年9月30日現在
(負債の部)				
流 動 負 債	5,726	4,224		
買掛金	2,075	1,429		
未払法人税等	925	1,140		
カード利用原価引当金	1,882	1,203		
賞与引当金	76	57		
その他	767	393		
固 定 負 債	229	129		
退職給付引当金	15	32		
役員退職慰労引当金	106	92		
その他	107	5		
負 債 合 計	5,955	4,354		
(少数株主持分)				
少数株主持分	31	—		
(資本の部)				
資 本 金	3,218	3,218		
資 本 剰 余 金	3,708	3,708		
利 益 剰 余 金	8,885	6,623		
その他有価証券評価差額金	247	4		
為 替 換 算 調 整 勘 定	0	45		
自 己 株 式	152	-		
資 本 合 計	15,907	13,599		
負債、少数株主持分及び資本合計	21,893	17,953		

連結子会社について

当社の連結子会社は以下の3社です。

Faith West Inc.(アメリカ)

主な事業内容:ネットワークを利用したコンテンツ配信サービス、
配信プラットフォーム技術の開発

Digiplug S.A.S.(フランス)

主な事業内容:ネットワークを利用したコンテンツ配信サービス、
配信プラットフォーム技術の開発

Faith Technologies S.A.S.(フランス)

主な事業内容:配信プラットフォーム技術の開発
株式会社ウェブマネー(日本)

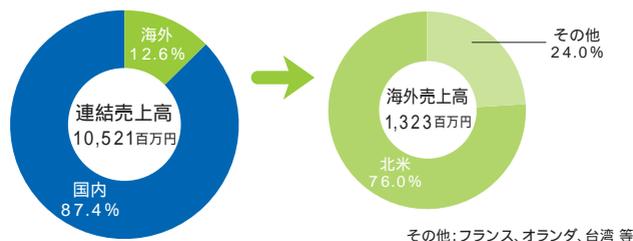
主な事業内容:電子決済サービスの提供

Faith Technologies S.A.S.については、当中間連結会計期間において
Digiplug S.A.S.から会社分割により設立したため、連結の範囲に含めていません。

中間連結損益計算書

科 目	当中間期	前中間期
	2004年4月1日 - 2004年9月30日	2003年4月1日 - 2003年9月30日
売 上 高	10,521	4,919
売 上 原 価	6,662	1,434
売上総利益	3,858	3,485
販売費及び一般管理費	1,949	956
営業利益	1,909	2,529
営業外収益	48	16
営業外費用	18	104
経常利益	1,939	2,441
特別利益	42	-
特別損失	122	0
税金等調整前中間純利益	1,859	2,441
法人税、住民税及び事業税	886	1,150
少数株主損失	40	-
中間純利益	1,014	1,291

地域別売上高の割合



その他: フランス、オランダ、台湾 等

中間連結利益剰余金計算書

科 目	当中間期	前中間期
	2004年4月1日 - 2004年9月30日	2003年4月1日 - 2003年9月30日
(資本剰余金の部)		
資本剰余金期首残高	3,708	3,708
資本剰余金中間期末残高	3,708	3,708
(利益剰余金の部)		
利益剰余金期首残高	7,973	5,518
利益剰余金増加高	1,014	1,291
中間純利益	1,014	1,291
利益剰余金減少高	101	186
配当金	59	59
役員賞与	39	40
自己株式処分差損	3	-
連結子会社の増加による減少高	-	86
利益剰余金中間期末残高	8,885	6,623

中間連結キャッシュ・フロー計算書

科 目	当中間期	前中間期
	2004年4月1日 - 2004年9月30日	2003年4月1日 - 2003年9月30日
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,142	1,288
投資活動によるキャッシュ・フロー	713	300
財務活動によるキャッシュ・フロー	214	58
現金及び現金同等物に係る換算差額	12	35
現金及び現金同等物の増加額	1,226	1,495
現金及び現金同等物の期首残高	8,274	6,649
新規連結子会社の現金及び現金同等物の期首残高	-	71
現金及び現金同等物の中間期末残高	9,501	8,216

キャッシュ・フローについて

当中間連結会計期間における現金及び現金同等物(以下「資金」という)は、前中間連結会計期間末の8,216百万円から1,284百万円増加し、9,501百万円(前年同期比15.6%増)となりました。

営業活動によるキャッシュ・フローは、法人税等の支払額が863百万円ありましたが、税金等調整前中間純利益を1,859百万円計上し、仕入債務の増加による資金が452百万円増加したことなどにより、2,142百万円(同66.3%増)の収入となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、投資有価証券の取得による支出が507百万円、サーバー等の設備投資による有形固定資産の取得による支出が129百万円あったことなどにより、713百万円の支出となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、自己株式の取得による支出が162百万円、配当金の支払が59百万円あったことにより、214百万円(同269.2%増)の支出となりました。

要約中間財務諸表(単独)

(単位 : 百万円 単位未満切り捨て)

中間貸借対照表

科 目	当中間期 前中間期	
	2004年 9月30日現在	2003年 9月30日現在
(資産の部)		
流動資産	11,286	9,470
現金及び預金	6,450	4,893
受取手形	4	4
売掛金	1,413	950
有価証券	2,717	2,858
たな卸資産	7	9
その他	728	758
貸倒引当金	35	3
固定資産	7,220	6,067
有形固定資産	409	459
無形固定資産	268	248
投資その他の資産	6,542	5,360
投資有価証券	1,320	742
関係会社株式	4,129	3,285
敷金	694	682
その他	464	717
貸倒引当金	67	67
資産合計	18,506	15,538

科 目	当中間期 前中間期	
	2004年 9月30日現在	2003年 9月30日現在
(負債の部)		
流動負債	1,802	1,640
買掛金	561	187
未払法人税等	869	1,140
賞与引当金	50	47
その他	320	264
固定負債	212	94
退職給付引当金	15	11
役員退職慰労引当金	106	83
その他	90	-
負債合計	2,014	1,734
(資本の部)		
資本金	3,218	3,218
資本剰余金	3,708	3,708
資本準備金	3,708	3,708
利益剰余金	9,469	6,872
利益準備金	1	1
任意積立金	7,500	5,000
中間未処分利益	1,968	1,871
その他有価証券評価差額金	248	4
自己株式	152	-
資本合計	16,492	13,803
負債及び資本合計	18,506	15,538

中間損益計算書

科 目	当中間期 前中間期	
	2004年4月1日 - 2004年9月30日	2003年4月1日 - 2003年9月30日
売上高	4,687	4,275
売上原価	1,822	978
売上総利益	2,865	3,297
販売費及び一般管理費	765	606
営業利益	2,100	2,691
営業外収益	46	16
営業外費用	12	104
経常利益	2,134	2,603
特別損失	63	-
税引前中間純利益	2,071	2,603
法人税、住民税及び事業税	846	1,149
中間純利益	1,224	1,454
前期繰越利益	746	416
自己株式処分差損	3	-
中間未処分利益	1,968	1,871

株主メモ

- 決 算 期 毎年3月31日
- 定 時 株 主 総 会 毎年6月
- 名 義 書 換 代 理 人 東京都千代田区丸の内一丁目4番3号
UFJ信託銀行株式会社
- 同 事 務 取 扱 場 所 〒541-8502
(お問い合わせ先) 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号
UFJ信託銀行株式会社 大阪支店証券代行部
電話 0120-094-777(通話料無料)
- 同 取 次 場 所 UFJ信託銀行株式会社本店および全国各支店
株式関係のお手続き用紙のご請求は、
次のUFJ信託銀行の電話およびインターネット
でも24時間承っております。
電話(通話料無料)
0120-244-479(本店証券代行部)
0120-684-479(大阪支店証券代行部)
インターネットホームページ
<http://www.ufjtrustbank.co.jp/>
- 公 告 掲 載 新 聞 日本経済新聞
ただし、貸借対照表および損益計算書の内容は、
当社ホームページにおいてご覧ください。
<http://www.faiht.co.jp/ir/kessan/>

本報告書に記載している会社名および製品名は、各社の商標または登録商標です。

免責条項

本報告書に記載している将来に関する予想については、現在入手可能な情報から得られた当社の経営者の判断に基づいています。実際の業績は、さまざまな要因の変化により、異なる場合があることをご承知おきください。

株式会社フェイス

〒604-8171
京都市中京区烏丸通御池下る虎屋町566-1
井門明治安田生命ビル

URL <http://www.faiht.co.jp/>

お問い合わせ先
TEL.075-213-3933 FAX.075-213-3833
E-mail ir@faiht.co.jp